

第 1 回全分科会の意見に対する修正案等

● 基本フレーム

(1) 人口の見通し

意見	修正案等
<p>基本構想（案）で掲げる 2042 年の目標人口（158,000 人）と基本フレームの人口（157,700 人）が異なることに違和感を持つ。</p> <p style="text-align: right;">【第 2 分科会】</p>	<p>出生率の向上や子育て世代の転出超過抑制といった施策を講じることで 2042 年の人口を 157,700 人と想定し、目標人口は更にこの上を目指す意図で大きな単位で括り、158,000 人と設定しました。しかしながら、この 2 つの数値が、どちらも政策意図を含んだ目標値であることは確かですので、ご意見を受けて、基本フレームにおける数値を 158,000 人に統一します。</p> <p style="text-align: center;">※別紙案参照</p>
<p>世帯数の中で世帯構成があると、各世代との関係性が分かる。</p> <p style="text-align: right;">【第 1 分科会】</p>	<p>基本フレーム(1)人口の見通しのうち、②世帯数のグラフ中の 2010 年、2015 年及び 2020 年の世帯数に、国勢調査の結果を基にした世帯構成の区分（「単身世帯」、「核家族世帯（夫婦のみ）」、「核家族世帯（子どもあり）」、「3 世代世帯」、「その他」）を明記します。</p> <p style="text-align: center;">※別紙案参照</p>

(2) 土地利用計画

意見	修正案等
<p>代々続く農地を守ろうと細々と農業を営む農家に対する支援も必要である。</p> <p style="text-align: center;">【第2分科会】</p>	<p>現状としまして、農業分野に関しては、農家の高齢化・担い手不足と耕作放棄地の増加が課題となっており、農地の集積・集約化を推進することで農地利用の最適化や規模拡大による農業経営の効率化を進めているところであります。一方で、市内の農業経営の形態は多種多様であることから、農家に対しては、大規模農家に限らない支援も行っているところです。</p> <p>例えば、経営移譲により農業経営を引き継いだ場合についても経営開始資金の対象となったり、農地を相続したが栽培方法がわからないといった方など野菜作りの基礎を学びたい人のために、作付けや施肥などの栽培技術や機械の扱い方などの研修を刈谷生きがい楽農センターにおいて実施しています。</p> <p>ご意見に対しましては、農業を行う多様な担い手を支援するべく基本方針別計画「3-2 農業」の小施策「321 持続可能な農業経営の推進」の②に次の下線部を追記します。</p> <p>『<u>農業の将来を担う後継者や新規就農者など多様な担い手の確保に向けた支援体制を構築します。</u>』</p>

意見	修正案等
<p>学校給食では、30%程度の地元食材を使用しなければならないはずだが、刈谷市ではどの程度使用しているのか。</p> <p style="text-align: center;">【第2分科会】</p>	<p>現在のところ、法令等ではそのような目標値はございませんが、本市における令和2年度の実績は「10品目／199品目」であり、割合としては約5%です。</p> <p>給食に地場産品を活用するためにはそれ相応の生産量が必要となりますが、本市の農家さんが生産する食品の内、相当量を生産できる品目が10品目であるのが現状です。</p> <p>本市としましては、第2次刈谷市食育基本計画においても地産地消を推進する旨を掲げておりまして、その中でも「給食において地場産物を積極的に使用」する旨を掲載しておりますので、今後、活用可能な食品があれば積極的に活用していきたいと考えています。</p>
<p>土地利用の図面に、市の西部を通る構想道路が「南北軸」と表記されている事に違和感がある。</p> <p style="text-align: center;">【第1分科会】</p>	<p>この図は総合計画と同時期に策定を予定する第4次都市計画マスタープランから引用したものであります。その中では、市内の幹線道路を“軸”として市内の各地域と隣接自治体を結んでいます。その一つに、南北を結ぶ構想の道路として破線を「南北軸」としています。敢えて疑問を持たれるような名称を説明もなく記載する必要はないため、「南北軸」の記載は削除します。</p>

● 重点戦略

重点戦略 1：若い世代や子育て世代への支援

意見	修正案等
<p>KPI の待機児童数が現状値も目標値も 0 となっており、現状を維持するという考えだと思うが、若い世代や子育て世代の支援をさらに充実するのであれば、保育園の数を増やすとか、特色のある保育園を増やすなど、選択肢を増やすことを考えても良いのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【第 3 分科会】</p>	<p>保育ニーズは依然として高いことや今後 0-2 歳児の利用基準を緩和した場合には保育ニーズが増加することが予想されることから、待機児童数ゼロを維持することは容易ではないと考えています。そのため、当該指標は維持したいと考えております。</p>
<p>KPI のうち、「平日の家事、育児、介護に携わっている時間が「1 時間以上」と回答する男性の割合」の目標値が 24.8%になるとどうなるのか、そのために行政がどう関わるのか、不明である。また、10 年後の目標値が低すぎないか。</p> <p>年齢別のクロス集計をして、若い世代を対象とした目標を設定してはどうか。あるいは、現状値なしでもいいので、新しい指標を設定してはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【第 1 分科会、第 3 分科会】</p>	<p>KPI を「<u>未就学児の子を持ち、平日の家事・育児等</u>介護に携わっている時間が <u>3 時間以上である父親の割合</u>」に修正し、その中間値を 25%、目標値を 50% に設定します。新規の指標となりますので現状値はございません。</p> <p>修正後の目標値を達成できるよう、男性の育児参加や女性の就労継続などに関する普及啓発等を行っていきます。なお、「3 時間」の考え方につきましては、未就学児の子を持つ夫婦が 1 日に携わる家事・育児・介護の時間の合計を 6 時間であると想定した上で設定しています。</p>

意見	修正案等
<p>人の生き方を考える人権教育が全ての基本となる。これが、男女共同参画や多文化共生、多様な学びにつながる。人権教育のことを入れた方が良い。</p> <p style="text-align: right;">【第3分科会】</p>	<p>人権尊重の理念は、基本方針4の「多様性が尊重され、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」の考えのもと、基本方針別計画「4-8 共存・協働」や「4-5 障害児・者福祉」などに織り込まれており、各課等の計画・事業レベルで人権について留意しています。</p>
<p>現在の子育て支援策の主要な対象が、幼少期の子どもとなっているが、一番お金のかかる中学生、高校生向けの支援が必要である。高校生までの医療費の無料化は効果がある。メンタルに問題がある場合は何度も通院が必要となるために、受診をためらうケースがある。また、10代の妊娠について医療にかかるのが遅くなるケースがある。こうしたケースの対策にもなる。</p> <p style="text-align: right;">【第3分科会】</p>	<p>医療費の無料化により、今まで病院にかかっていた軽度の症状でも受診する可能性が高くなり、様々な努力により医療費の抑制に取り組んでいる各保険者の負担増が懸念されますので、現在のところ、高校生世代の通院に係る医療費助成の予定はありませんが、引き続き、その必要性について研究してまいります。</p>
<p>KPIとして「企業等のスポーツ選手を招いた取組を行っている小中学校及び特別支援学校の割合」が設定されているが、なぜスポーツ選手なのか。スポーツ選手に限る必要はない。科学者であり、企業経営者であり、第1線で活躍して成果を上げた人など、いろいろな人から生き方を学ぶ方が、子ども達の学びの幅が広がる。</p> <p style="text-align: right;">【第3分科会】</p>	<p>既に全小中学校及び特別支援学校においてスポーツ選手のみでなく、文化・芸術活動をされている方や企業などと連携した学びの機会を提供しているのが現状あり、ご指摘いただいた内容ではKPIとして不相当となります。</p> <p>そこで、これらの取組は児童生徒が「将来の夢」や「目標」を持てるよう実施しているものであることから、KPIを「将来</p>

意見	修正案等
	<p>の夢や目標をもっている児童生徒の割合」に修正し、現状値の77.4%に対し、その中間値を79.7%、目標値を83%に設定します。それに伴いまして、方向性5「教育環境の充実と多様な学びの提供」の主な取組を「<u>企業やスポーツ選手、文化・芸術活動をする方との交流</u>」に修正します。</p>
<p>祖父母と同居・隣居していると、保育園に預かってもらいにくくなるという話を聞いたことがある。待機児童がゼロであるならば、祖父母の就労の有無によらず、柔軟な考え方で、より幅広く保育サービスを提供してはどうか。</p> <p>子どもを社会で育てようという考え方に立つことが重要である。</p> <p style="text-align: center;">【第1分科会】</p>	<p>保育園入所の審査基準に祖父母の同居要件は存在し、審査に影響を及ぼすが、現在よりも柔軟な考え方で、その影響を少なくする方向で検討を進めています。更に、保育サービスを利用するにあたっての保護者の利便性向上についても柔軟な発想をもって取り組みたいと考えています。そこで、方向性4「子どもを育てやすい環境の整備」の説明文及び主な取組を次のとおり修正します。</p> <p>『保護者の就労形態の多様化に対応するため、未就学児の保育環境や放課後児童クラブなどの充実を<u>図るとともに、サービスの提供にあたっては、保護者の利便性向上を図ります。</u>』、主な取組に『<u>ICTを活用した保育環境の整備</u>』を加え、「保育園や幼児園、放課後児童クラブなどの多様な保育サービスの<u>充実</u>」に修正します。</p>

意見	修正案等
<p>刈谷市には教育に熱心な家庭が多い反面、家庭の経済状況と子どもの学力は比例している。質の高い教育に加え、誰も取りこぼさない視点での施策も入れるべきである。</p> <p style="text-align: right;">【第1分科会】</p>	<p>市の考える「質の高い教育」は、「学力レベルを高めること」とは視点がずれるため、その意図を正しく伝えるべく、方向性5の説明文を次のとおり修正します。</p> <p>『また、<u>義務教育においては、関係機関と連携し、全ての子どもに興味・関心を高め、見方や考え方を広げることができる</u>ような質の高い教育を促進するとともに、～』</p>

重点戦略2：魅力ある働く場の創出

意見	修正案等
<p>市内の製造品出荷額等を増やそうとすると、新たに工場が建てられるようにしないといけないが、実際は、市外への転出が多く、新規立地も限られる印象である。</p> <p>KPIとして製造品出荷額等と従業者数を設定しているが、大手企業の動向によって影響される。行政としてどう関わるのか分からない。</p> <p style="text-align: right;">【第2分科会、第3分科会】</p>	<p>本市としましては、新たな工業用地の創出や創業者に対する支援、事業承継に対する支援体制の強化に取り組みたいと考えていますが、ご指摘いただきましたとおり設定したKPIは大手企業の動向が影響するかと思います。</p> <p>そこで、「製造品出荷額等」についての代替案を3つ検討してまいりましたので、ご審議の対象としていただきたいと思います。</p> <p>なお、従業者数においても大手企業の動向が影響すると思いますが、方向性1「産業の振興及び担い手の確保」及び方向性</p>

意見	修正案等
	<p>2「働きやすい環境の整備」を総合的に進行管理する指標といたく、修正をしていません。</p> <p>代替案候補</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人数 ・新規法人設立数 ・市内総生産 <p>※本市内で生産された財貨・サービスの売上高(産出額)から、原材料・光熱費などの経費(中間投入額)を控除したもの</p>
<p>シルバー人材センターの会員数を KPI に掲げているが、実際にはシルバー人材センターの人手が不足している。ものづくり企業で勤めていた人材の活用など、もっと働ける高齢者を活用すべきである。高度技術への対応、高齢者や女性、障がい者の社会参加の促進に対応するために、どのような雇用の場をつくるのかが問われる。その観点から、KPI としてシルバー人材センターの会員数が妥当なのか、疑問に感じる。</p> <p style="text-align: right;">【第2分科会、第3分科会】</p>	<p>ご意見にありますとおり、多様な高齢者が活躍する社会をめざし、分野を拡げながら就業の機会を確保していくことが重要であると考えます。</p> <p>そこで、会員数ではなく、就業に関する指標として年間の「シルバー人材センター延べ就労日数」を KPI に掲げ、現状値の 62,060 日に対し、中間値を 63,000 日、目標値を 64,000 日に設定します。</p> <p>また、職場における女性活躍を推進するという観点から、新</p>

意見	修正案等
	<p>たに『「生活と仕事の調和」（ライフ・ワーク・バランス）の支援に取り組んでいる事業所の割合』を KPI として追加し、現状値の 24.4% に対し、中間値を 31.5%、目標値を 36.0% に設定します。</p> <p>なお、一般的にはワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）と呼ばれますが、本市では令和 2 年度に開催しました日本女性会議をきっかけに、長い人生を視野に入れ、地域や家庭での日々の生活を豊かに送ることを基礎においた考えとして、ワークよりもライフを優先する表現としています。</p> <p>これに伴い、方向性 2 の説明文及び基本方針別計画「4-8 共存・協働」内の「ワーク・ライフ・バランス」を「ライフ・ワーク・バランス」に修正します。</p>
<p>スタートアップ支援が重要である。</p> <p style="text-align: center;">【第 1 分科会】</p>	<p>方向性 1 の主な取組を次のとおり修正します。</p> <p>『<u>創業やスタートアップに対する支援</u>』</p> <p>なお、併せて説明文中の 2 行目を次のとおり修正します。</p> <p>『～市内での起業創業支援、AI～』</p>

重点戦略3：にぎわいの創出

意見	修正案等
<p>広報の編集に民間の経験やアイデアを採用すると、親しみやすいものにできるのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【第1分科会】</p>	<p>現在、刈谷市の広報広聴課では民間企業出身の職員が市民だよりの作成に携わっています。引き続き、読みやすい紙面の作成に努めていきます。</p>
<p>愛知教育大学との連携を検討できないか。</p> <p style="text-align: right;">【第1分科会】</p>	<p>方向性1「刈谷駅周辺のにぎわいづくり」の主な取組を次のとおり修正します。</p> <p style="text-align: center;">『商店街や民間事業者、大学などと連携したにぎわいの創出』</p>

重点戦略4：誰もが活躍できる社会の形成

意見	修正案等
<p>地区社会福祉協議会に対する支援とは、何を支援するか、どのような地区社協にするかというこというところまでを含めて記載した方が良い。</p> <p style="text-align: right;">【第3分科会】</p>	<p>地区社会福祉協議会は地域の問題を解決するために住民同士が相互に助け合い、支え合う活動をする地域住民主体の活動組織の集合体で、市内には3つの地区社協があり、独自の活動を行っています。市はこれらの活動の費用を助成するほか、職員が活動のアイデアに対して提案や助言するなど、人的な支援も総合的に行っています。地区社協の独立性を保ちつつ適切な支援を行うためにも現在の表記とさせていただきます。</p>

意見	修正案等
<p>様々な課題を持っている人がいて、地域の様々な福祉資源を有効に活用して安心して暮らせる地域社会をつくる必要がある。その観点から、方向性1の主な取組が医療、介護に偏りすぎている。</p> <p style="text-align: center;">【第3分科会】</p>	<p>方向性1で掲げる「市民一人ひとりが支え合う地域共生社会の形成」を実現するためには地区社教の取組が適しています。</p> <p>一方で、主な取組が医療と介護に偏っているため、主な取組を次のとおり削除及び追記します。</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療、介護を一体的に提供できる体制の構築 ・地域包括支援センターの機能強化 ・多職種協働による地域課題の共有と自立支援 </div>
<p>孤立している高齢者が増えている。こうした人は他の人と会話したいというニーズを持っているので、地域の中で活動できるようにすることが重要である。地域に溶け込んで活動できるようにするという文書を入れたらどうか。</p> <p style="text-align: center;">【第3分科会】</p>	<p>方向性2「生きがいを持ち健康に暮らせる環境づくり」の説明文の後段を次のとおり修正します。</p> <p>『また、健康づくりや生涯スポーツの活動を通じて、<u>地域に溶け込み</u>、いつもまでも元気に暮らせる環境づくりを支援します。』</p>
<p>自治会の役割は大きいですが、自治会も余裕が無くなっており十分な活動ができなくなっている。自治会の活動支援を施策に入れてほしい。</p> <p>地域の組織に加入することがお互いのメリットとなり、それが自分のメリットになるということを理解してもらうことが必要である。自主防災会は、みんなで守ることが自分を守るこ</p>	<p>方向性3「市民活動の推進」で掲げる主な取組の一部を次のとおり修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動や地域活動の活性化支援 ・自治会や公民館などの<u>地域活動</u>の活性化支援

意見	修正案等
<p>とにつながるということで加入を呼び掛けている。</p> <p style="text-align: right;">【第3分科会】</p>	
<p>リカレント教育の仕組みが重要である。</p> <p style="text-align: right;">【第1分科会】</p>	<p>方向性2「生きがいを持ち健康に暮らせる環境づくり」の説明文の前段及び主な取組を次のとおり修正します。</p> <p style="text-align: center;">『<u>歴史・文化、健康づくりなど、興味に合わせた各種イベントや講座を開催するとともに、ライフステージに応じた多様な学び・体験の機会を提供します。</u>』と修正し、主な取組に『<u>リカレント教育の推進</u>』を加えます。</p>
<p>方向性2にある文化に触れる機会として、高齢者の就労が進み、ゆとりがなくなっているため、老後に楽しめる環境を提供できるようにすることが重要である。</p> <p style="text-align: right;">【第1分科会】</p>	<p>方向性2の説明文中のとおり、興味に合わせた学びや体験の機会を提供していきます。</p>